

初期消火は3分以内に！

消火は最初の3分間が勝負です。

万が一、火が出たときは、初期消火に努めましょう。また、地震の際は、たとえ小さな揺れでも、必ず火の始末をすることが大切です。

火が天井まで燃え広がったら、もはや素人では消火が困難ですから、あとは消防士にまかせて早めに避難して下さい。

初期消火の3原則

行動1 早く知らせる



- 小さな火事でも一人で消そうとしないことが大切です。
- 大声で隣近所に助けを求め、声が出ない場合は、非常ベルや音の出るものを叩いて下さい。
- ただちに、119番通報を。

行動2 早く消火する



- ボヤのうちに消し止められるかどうか分かれ目となります。
- 消火器や水だけでなく、座ぶとんや毛布など手近なものを最大限に活用しましょう。

行動3 速く逃げる



- 天井まで燃え広がったら、いさぎよく諦めて、避難して下さい。
- 避難するときは、燃えている部屋のドアや窓を閉めて空気を遮断しておきましょう。
- すみやかに行動して下さい。

火元別初期消火のポイント

油なべが燃え出したら

- まず、ガスの元栓を閉め、粉末消火器で油面を覆うように噴射して下さい。
- 水をかける、マヨネーズや野菜を入れるのは厳禁。
- 消火器がない場合は、鍋にふたをして空気を遮断するか、水で濡らしたバスタオルなどでなべ全体を覆いましょう。



カーテンやふすまに火がついたら

- カーテン、ふすま、障子などは、火が燃え上がる時の通り道となります。
- 天井まで燃え広がる前に、水や消火器で消火して下さい。
- 間に合わなければ、カーテンはレールから引きちぎり、ふすまや障子は蹴り倒して、足で踏んで消しましょう。



衣類に火がついたら

- ただちに床や地面に倒れて、転がりながら火を消します。
- その後、さらに水をかぶって完全に消火して下さい。
- 風呂場のそばにいるときは、湯船の残りの水を頭からかぶるか、湯船の中に飛び込みましょう。



石油ストーブから火が出たら

- 消火器があれば、火元に向けて噴射します。
- 消火器がない場合は、水に濡らした毛布や布をかぶせるか、バケツ一杯の水を一気にかけて下さい。
- 火が消えた後も、天板の余熱で再発火するケースがありますから注意しましょう。

